

令和4年度第3回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和5年2月21日(火) 13:15～14:45

2 出席者

- (1) 構成員
- | | |
|------|-------|
| 市長 | 園田 裕史 |
| 教育長 | 遠藤 雅己 |
| 教育委員 | 佐古 順子 |
| 教育委員 | 中嶋 剛 |
| 教育委員 | 前田 愛 |
| 教育委員 | 船橋 修一 |
| 教育委員 | 朝長 昭光 |
- (2) 説明者
- | | |
|---------|--------|
| 教育政策監 | 西村 一孔 |
| 教育次長 | 川下 隆治 |
| こども未来部長 | 山中 さと子 |
| 教育総務課長 | 児玉 英輝 |
| 学校教育課長 | 堺 邦寿 |
| こども政策課長 | 内野 一嗣 |
- (3) 事務局
- | | |
|--------|--------|
| 企画政策部長 | 渡邊 真一郎 |
|--------|--------|

3 協議

(1) 令和5年度教育に関する方針について

4 その他

(1) 大村市幼児教育・保育支援センターについて

5 閉会

[協議資料]

- 令和5年度教育に関する方針について(ミライへつなぐ学校教育推進プロジェクト)
 - ・時報「市町村教委」NO.303(R5.3月)原稿
 - ・大村市教育委員会発行「ミライへON!」
- 広報おおむら3月号特集記事
- 大村市幼児教育・保育支援センター

[参考資料]

- ・令和5年度施政方針説明

企画政策部長 渡邊 真一郎

定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第3回総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めます大村市企画政策部の渡邊でございます。どうぞよろしくお願いたします。

まず始めに、お手元の資料のご確認をお願いいたします。配布しております資料は、会次第、出席者名簿、配席図、本日の議題の資料といたしまして、「令和5年度教育に関する方針について」、「時報「市町村教委」NO.303原稿」、「大村市教育委員会発行「ミライへON!」」、「広報おおむら3月号特集記事」、それから「大村市幼児教育・保育支援センター」、参考資料として「令和5年度施政方針」を付けております。以上でございますが、資料の不足等ございませんでしょうか。それでは、早速会次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長、園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。改めまして新年初めての総合教育会議で、本年もよろしくお願いたします。また、本日の総合教育会議にも、記者の皆様、そして傍聴席にもたくさんお越しいただきましてありがとうございます。毎回申し上げておりますが、大村市の総合教育会議は本当に傍聴席に毎回、お越しただけということ、他の市町ではないのかなと思っております。本当に関心をお持ちいただきましてありがとうございます。

また今年に入りまして、3年ぶりといいますか、通常と近い形で少し縮小しましたが、成人式の「二十歳の集い」ということで初めてでしたが、無事に開催することができました。私事ですが、ちょうど長男も成人式でございましたが、小さい頃から知っている近所の子たちもたくさんいて、去年は一部で交通事故がありましたので心配しておりましたが、全くといって良いほど何も問題なく、本当に素晴らしい第一回目の「二十歳の集い」になったのではないかと考えております。これにつ

きましても、昨年の成人式後に教育委員の皆様には様々なご指摘をいただきまして、教育委員会で対策を講じて実施できたことが、本当に素晴らしかったなと思っております。今朝、教育長とも話をしていたのですが、改めて大村市歌の斉唱という形についても、今までは市歌の斉唱となれば、成人式の時にちょっとざわつくのですが、全くざわつくこともなく、ここ数年は歌えるのが当たり前というような状況がありました。ここ10年ぐらいになると思うのですが、これは本当に学校現場の中で校長先生が、今では全ての学校が市歌をしっかりと歌わせて覚えて、その意味を理解するという形で、しっかりと取り組んできた成果ではないかなと思っております。今日は朝から商工会議所女性会の皆さんから小中学生、幼稚園生、保育園生に対しても市歌が書かれたクリアファイルを寄贈いただきました。幼少期から大村のことを愛してくれるような子どもたちが増えるという取組みに繋がると思いますので、今後もこういったことを継続して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

昨年は、令和4年で市制施行80周年、ポートレース大村開設70周年ということで節目の年でした。ご存じのとおり、都市計画道路が郡中学校まできれいに繋がって、新幹線が開業したり、また教育委員会でいうと、この大村市で初めていわゆる世界遺産といわれるようなユネスコ無形文化遺産に、黒丸踊と沖田踊が日本の風流踊ということで登録されました。残念ながら寿古踊は、この申請の中では一緒にということにはなりませんでしたが、今回のユネスコ無形文化遺産を受けて、そのベースとなる郡三踊というものに繋げていって、皆さんに知っていただけるということに取組んで参りたいと思っております。今、早速「ミライON」で企画展を開催しておりますので、ぜひお立ち寄りいただければと思っております。

令和4年度から新たに教育委員会の皆さんと進めてきました「給付型奨学金」について、前回は

いろいろと意見交換をさせていただきましたが、早速、毛色を変えて新たに文化・芸術・スポーツという部分で、文化芸術部門でアメリカのユタ州に留学をしている女の子が、この給付型の奨学金を活用して留学する実績も、早速一例あがっております。新しい市政だよりも、今月号と来月号で掲載をさせていただいたり、この後の話題にもなりますが、中学校の統一型制服について大村高校の校長先生と遠藤教育長が対談をされた「制服事情」ということで関心も高まっていることと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

先日、大村市の表彰式がございまして、船橋委員も表彰されました。誠におめでとうございます。その中でもたくさん子どもたちが来ていました。スポーツはまた3月に表彰式があるのですが、スポーツの活躍というのはこれまでもすごかったのですが、今回の大村市の表彰式では、玖島中学校の赤川君が文部科学大臣賞を、現役の玖島中、郡中学校の先生方も現場として文部科学大臣賞、文化面では大村中学校から活水に進学したお二人が、マーチングで全国金賞、郡中学校から福岡の精華女子に進学した女の子もマーチングで全国金賞、そういった子たちも受賞をしています。高校生や成人の方に対しても年末年始は、特に年末ではバスケットのウィンターカップで長崎西校に通う郡中学校の女の子がひとりスタメンで全国大会に出場をし、高校生の駅伝では、諫早高校に進学した女子3人が大村の子で、男子は瓊浦高校の2人が大村の子で、ラグビーは北陽台高校に進学した7人のうち4人がスタメン主力で活躍をし、サッカーは国見高校が出場しましたが、国見にもメンバーには入っていませんが大村の子がいたらしいです。年が明けてニューイヤー駅伝は、林田選手と定方選手が激走をし、箱根駅伝は花尾選手ということで、ちょっと流行病になっていたということで聞きましたけれども、出場予定でしたが走れませんでした。大村工業高校はもちろん大村の学校ですし、九州文化学園で選手宣誓をし、キ

ャプテンを務めた田中凜さんは鈴田の子です。全ての競技ほとんどに大村の子たちが、市外の学校には行っていますが、大村から通って大活躍をしています。本当にこの給付型奨学金の成功した取組に表われるように、学業だけではなく文化・スポーツ・芸術の中でも活躍する姿を見せてくれていることに感謝しているところです。

最後になりましたが、ちょうど年末に東京で、渡邊部長のいる企画政策部の地方創生推進室でコロナ禍に市外の大学生へ4千円相当の大村市の物産品を送るという事業「つながるプロジェクト」を実施していて、これまで4回実施しました。これは物を送るというのが目的ではなくて、県外にいる学生さんたちが、大村のを感じ、Uターン、またはIターンなどに繋げるということが主な目的で実施しています。リアルで意見交換しようということで、大村東京事務所で開催をしました。その中には東京大学の女の子、法政大学の女の子、青山学院大学の男の子、國學院大学の男の子、日大の男の子、あとは専門学校に通う女の子と津田塾の女の子、いわゆるしっかり学業に取り組んできて、今頑張っている人たちが、リアルにその場に集まってくれました。これも公募したら来たいといって申し込んでくれました。その子たちに大村のことをどう思っていますかと聞くと、非常に大村に対して愛着があって、大村での思い出のことを口にしていました。どんなことが大村での思い出でしたかと聞くと、本当にありがたいのが、地域であったお祭りとか、神社の駐車場で地域のおじちゃんやおばちゃんたちから可愛がってもらったとか、マックスバリューに買い物にいくと、知り合いのおじちゃんたちから声をかけてもらうことが一番嬉しいし、帰ってきた時に大村に帰ってきて良かったと思うとか、本当に身近なところでいろいろとそういうことを感じるという場面に遭遇して大村は本当に良いなということをお口に言ってくれていました。ある意味、何か特別なことをやるとか、特別なことがこの子たちに

残っているというよりか、日常の大村での生活で地域の皆さんにお世話になったということが、非常にその子たちに残っているんだなというところで、当然、名だたる大学に通っている子たちで夢があって、希望があって、大村に恩返ししたいということで仰っていましたので非常に明るいと感じたところです。

長くなりましたが、今日はこの一年間、この総合教育会議の中や教育委員会の中でも皆さんにご議論いただいて、さらに大村市の教育のこの分野をといたところでもできる限り次年度の予算に計上させていただいて、方針を示させていただいたものと思っておりますので、この点のご報告と、またご意見を頂戴したいなというところで会議を進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

企画政策部長 渡邊 真一郎

ありがとうございます。それでは、次第「3. 協議」に移ります。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条の規定により市長が行います。園田市長、よろしくお願いいたします。

大村市長 園田 裕史

それでは協議に入ります。よろしくお願いいたします。まず、協議事項(1)「令和5年度教育に関する方針について」でございます。こちらについて事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 堺 邦寿

それでは令和5年度教育に関する方針について、学校教育課から「ミライへつなぐ学校教育推進プロジェクト」の進捗状況についてと今後の予定についてご説明いたします。

まず本日ご報告する内容につきましては、一枚目のレジュメにお示ししているとおりでございます。その後に各資料を添付しておりますので、その資料に沿って説明を進めていきたいと思っております。

「ミライへつなぐ学校教育推進プロジェクト」につきましては、学校規模の適正化、中学校統一型制服の導入、自信をもたせる学習評価の三つの

取組を行っております。この内容につきましては、二枚目でございます、時報「市町村教委」NO.303これは令和5年3月の原稿でございますが、この裏面をご覧ください。ここにそれぞれの取組内容等を載せております。学校規模の適正化につきましては、本市の小学校は児童数21名の完全複式極小規模校から、1,058名の県内最大規模校まであります。また、26学級の大規模校を含む6中学校に約3,000名の生徒が在籍しています。これらの学校の適正化は、それぞれの規模のよさを最大限に生かし、課題を最小限に抑える方策を検討することとし、安易に統廃合を行わない方針で進めています。ここで挙げております方針につきましては、「ミライへON!NO.8」の中段のところをご覧ください。よろしいでしょうか。今年度、各地区を見て回ったり、学校の聞き取りアンケート等を行い、また各資料の精査を行いまして、この資料NO.8の上の方になりますが、長崎県の人口と小学校入学者数の推移については、このように大きく落ち込む、急激に減っていくことが想定されますが、右側をご覧くださいますと、大村市については、これまで10年以上ほぼ一学年1,000名で推移をしています。こういったことも全て踏まえまして、適正化の基本方針(案)でございますけれども、適正化を考える際の視点として、まず各学校の特色を生かすこと、そして児童生徒数の推移を見ながら、継続的で段階的な見直しを行うこととしています。また適正化の方向性としましては、安易な廃校・分離統合は行わず、大規模校・小規模校それぞれのメリットを最大限に生かし、デメリットを最小限に低減する方策を考える。二点目、大規模校は通学区域の見直しを行い、適正規模に近づける。三点目、小規模校は特別転入学制度の拡充などの方策により、学校規模の維持を図ることとしています。その下に載せておりますけれども、決して拙速に行うものではなく、今後地域の皆様と協議を重ねながら進めて参る予定でございます。また学校規模適正化と同時に進めていくこ

としましては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）、また学校施設の長寿命化計画となっております。詳細については、枠囲みの中、また裏面にまとめていますので、後ほどご覧いただければと思います。

先程の時報「市町村教委」NO. 303 をご覧いただきたいのですが、中学校統一型制服の導入につきましては、令和6年開始を目指して、性差によって指定されることのない新制服の選定を進めております。これは時代の要請であるとともに、学校による価格差の是正や、オールおおむらの意識の高揚にも資するものです。また、生徒数の増減や特色ある教育活動の実施に柔軟に対応できるよう、様々な理由による指定校変更を行いやすくするものでもあります。

このことの詳細については、「ミライへON!NO. 6」をご覧いただければよろしいでしょうか。このプロジェクトの進捗状況として、新制服検討委員会を8月に実施しております。その前に保護者、児童生徒、教師のアンケートも行っておりますけれども、そういった内容も踏まえて検討委員会を行いました。そこでは制服の必要性、変更の必要性、導入の形態、新制服の基本的な考え、検討する際の視点等を協議し、ここにまとめているように整理したところです。

続いて「ミライへON!NO. 7」をご覧ください。検討委員会を経た後、この制定委員会を設置いたしました。委員については、ここにありましており市教育長、市教育政策監、市内全中学校長6名、市校長会代表、PTA 連合会代表、市内県立学校代表、市内中学校生徒指導主事代表、市内小学校生活指導主任代表、青年会議所代表、商工会議所代表、民生委員児童委員代表、保護者代表は公募で2名入っていただきました。そのほか教育委員会が必要と認める者と構成をしまして、第1回の会議を10月に行いまして、制服メーカーによる新制服（案）の提案について依頼をしたところです。第2回の会議は12月に行い、各メーカーのプレゼン

を受けて数点を新制服候補として決定をいたしました。数点は4点でございます。この4点をサンプル展示会ということで、令和5年1月中旬から令和5年2月上旬にかけて巡回展示を行いました。市内の小中学校21校とコミセン等3カ所の24カ所で展示会を行っております。新制服候補のサンプルを市内小中学校、コミュニティセンター等に展示し、小・中学生や保護者の皆様に投票してもらいました。この右側にある写真がそのサンプルを見ている小学生の様子です。その時にとったアンケート等については、現在集約を進めているところです。その内容等を元に、第3回の会議を令和5年2月としておりますが、2月末に新制服候補から1点を新制服候補の案として決定する予定としております。詳細につきましては、ここに記載しているとおりです。今後のスケジュールについては、2月に第3回制定委員会、新年度になりまして5月、6月に第4回、第5回の制定委員会を終え、新制服の決定を公式発表ということで予定しているところです。令和6年4月には新制服での入学式をできるように、今、進めているところです。

時報「市町村教委」に戻っていただきまして、自信をもたせる学習評価の実態ということで、学習指導要領が変わりまして、観点別学習状況評価が3観点になるなど、大きく変わった学習評価の考えを各教員に根付かせるとともに、評価の客観性や公正性を強化することを念頭に市内教務主任による研究をこの一年間進めて参りました。評価と指導が一体となって、子どものよさを見取り、不十分な点があればその改善のためにフォローアップを行って子どもを励まし、自信を持たせる営みであることを、再度確認しているところです。今後は、学校間の評価結果の差を是正する取組に着手して参ります。この学習評価につきましては、令和4年度を取組ということで、先程も申し上げましたとおり、各学校の教務主任に集まってもらってチームによる研究を進めて参りました。この

当初の課題としては目標に準拠した評価の考え方、また不登校の子どもの評価のあり方等が未だ十分浸透しているとは言えない状況ということから、研究を進めてきたところですが、今年度末には自信をもたせる学習評価のあり方ハンドブックを作成し、市内全職員へネット上の配布になるのですが、そういったものを配布いたしまして、学習評価についてしっかりと根付かせていけるようにしているところです。

令和5年度教育に関する方針につきましては、今申し上げたとおりでございますけれども、よりよい大村市の子どもたちのミライへつなぐということを第一に考え、次年度も精一杯取組んで参りたいと思っております。事務局からの報告は以上でございます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。項目ごとに詳しくご説明いただきましたが、もともと遠藤教育長のリーダーシップのもとに、ミライへつなぐ学校教育推進プロジェクトということで、3本の柱を立てられて、全てこれまでペンディングしてきたような大きな事案であったり、制服を統一しようということであったり、現下の事案であったり、結構これは大変だなと思っていたのですが、本当にひとつひとつしっかりと進んできていて、進捗の報告を先般、私も受けたところです。本当にしっかり取組んでいただいているなと思っております。私としては1点目の学校規模の適正化というところで、この資料の中にもありますが、令和5年度から福重小学校の建替え、放虎原小学校の大規模改修、鈴田小学校の大規模改築、西大村中学校の体育館の建替え、これはずっと続いていきます。今後、三城小学校の建替えであったり、旭が丘小学校の改修であったり、建替えは三城の次が中央ということで、いろいろな形で計画が順に進んでいくところで、そのためにも70周年を迎えたポータル大村での売上げがこういった建替えにも

財源活用できるように、頑張っていきたいなと思っております。そこで学校が建替わる時に、今後50年使うために、今後の人口動態調査とか、まちの変化をイメージしながら作っていかねばならないなということで、当初の予定より福重小学校については非常に大きい校舎、形でしっかり受け入れることができるように計画しています。非常に福重が人口が増えて子どもたちが増えているので、こういった福重地区周辺のまちの背景であったりとか、今後は例えば放虎原小学校の改修ですけれども、その次に三城、中央という格好になっています。まちの中の児童数の増減で三城も増えていて、中央は逆に減っている。そんな背景を含めて学校規模の適正化というのがどういうふうに考えていくべきか、これは非常にデリケートなので地域の方々のご意見を聞きながら、今やらなければ後で取り返しのつかないことにもなりますので、この部分をしっかり進めていただきたいなと思っております。一方で先程も堺課長からもありましたけれども、安易な統廃合はしないということですが、地域のためになって地域のよりよい形を考えられるのであればということで、今、萱瀬地区では萱瀬小学校、萱瀬中学校、黒木小学校の今後のあり方、こういったものについても幅広いやり方を検討していくべきだと、これは決まったものではありませんが、小中施設一体型学校、こういった教育の考え方というのをイメージしながら、皆様のご意見を聞きながら、進めて行かなければならないなということで、ぜひここは委員の皆様にもご意見をいただければと思っています。

2点目の中学校の統一型制服もバッチリ進んでいまして、これもなかなか簡単にはいかないところかと思っていたのですが、本当に児童、保護者の皆さん、最初は何でというような反応が多くて、私の近所のママ友たちからもたくさんラインがきて、何で制服が変わるんですかとありましたけれども、説明したら結構皆様ご理解、納得いただ

いたところでは、制服のサンプルも見せていただきましたけれども、非常に大村をイメージしたデザインが提案されていたり、本当に愛郷心につながるなと思っているところです。これはもちろん外部の審査会のメンバーもいますので、適正、公正な形で最終的に決まって、目的としているところを達成していければと思っているところです。非常に関心が高いところなので、取組んでいきたいなと思っています。後ほど教育長からもありますが、大村市内でも大村高校として歴史がある学校で、歴史のある制服、聞くところによると日本で2番目に古い女子生徒の制服だったということで聞きますし、変わるというタイミングで大村市の中学校の制服も変わるということで、非常に関心も高く良い方向に進んでいければと思っています。これについては前回、意見交換会でざくばらんに意見交換をさせていただいて、今の中学校の制服もそうですけれども、例えば校則とか、どういうふうな背景になっていて、今まだ続いている校則であったり、新たに作っていく校則みたいなところまで、また議論が進んで行けば良いなと個人的には思っていますので、制服が変わるといふ一つのきっかけが、また意識付けになればと思っています。

自信をもたせる学習評価の実施については、今年度末には一定の方向で進んでいくということです。しきりに教育長が一芸に秀でる、一芸教育を仰っていますので、給付型奨学金も含めて学業はもちろんのこと、それ以外に文化・スポーツ・芸術、何でも良いので自分に自信をもてるというところを柱に据えるという方針が行き渡るように浸透していけば良いなと思いますので引き続きよろしく願いいたします。

私としては、非常に三つともしっかり進んでいると感じていますが、委員の皆さんから次年度に向けて、これまでの進捗に対してご意見、ご感想、ご質問等あればよろしく願いいたします。朝長委員どうぞ。

教育委員 朝長 昭光

学校規模の適正化に関しては、私のところは隣が中央小学校で私のところからは三城小学校になるのです。小学校の距離はあまり変わらないのですが、次の中学校は、西大村中学校はすぐ近くなんですが大村中学校は今の中学校ではなくて大村高校の前のグラウンドにあった大村中学校で、遠くまで歩いていかないといけなくて。要するに昔は町名で決めていたんですね、学校の地域を。鈴田まで大村中学校だったんですよ。それをよく遠藤先生は規模を変えようと思ったなど。制服に関しても昔は教育委員会は堅くて簡単には動かなかったと思っていたのですが、教育委員になって素晴らしいことをやっているなど関心しております。ひとつ職員から言われたのですが、せっかく制服を変えるなら靴下も変えてもらえませんか。子どもたちは白の靴下なんですよ。白は汚れが目立って親としてはとても大変だと。先生たちは白を履いている訳ではなくて、紺とか黒を履いている。なんとなく白は昔の軍隊の時から続いているんじゃないかと思ったぐらいなのですが。私の意見ではなくて職員の母親さんが制服が変わることが嬉しいと言いながら、せっかくなら靴下も変えて欲しいと、そういう提案があったので。もう決まっているのか、そういうところは分かりませんが、靴下は親にとって洗濯が大変なんですよ。

教育委員 前田 愛

洗濯だけではとれないので、固形石けんで洗濯しています。

教育委員 朝長 昭光

だから色つきの紺色とかにしたら、あまり目立たないので親は楽なんですけど、せっかく制服が変わるんだから靴下も変えてはどうでしょうかという意見をもらいましたので報告いたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。学校の校区の変更とか、地域が道一本でこっちがあっちで、こっちがあっちでと言うのは、なかなか簡単に換えられること

ではなかったり、当然校区の中の町内とか、これまでの繋がりとか健全協とか地域団体とかに係わってくるので、結構デリケートで簡単にはいかないと思っています。そういったところで地域の方に改めて聞いていく、竹松小校区にしても富の原小校区にしても非常に今、家も建っていて、生徒も増えてきているので、だからといって新しく作る福重小学校に、今まで竹松小校区だった子が福重ですとは簡単にはできなかつたりするし、できないので、そこら辺の検討かなというところですよ。

あとは靴下の話ですけど、前回のぞっくばらんな意見交換の中でツーブロック、ポニーテール議論がありましたよね。先程の制服が再来年度の令和6年4月に変わる時に、いろいろな形で方針が変わるので、靴下のことについても、ツーブロック、ポニーテールのことについても、やはり今の校則をどう変えるのかということを考える時期に来ているのかなと、改めて今の靴下の意見を聞いて感じました。

たまたま先日、私が長崎市立長崎商業高校に廣中璃梨佳さんが卒業した高校に呼ばれて、パネルディスカッションに登壇して地域の大人と語り合うというイベントだったのですが、職業人の大人が集まって高校1年生と語り合うというものだったのですが、地域の美容師の方から学校に対しての意見で、どうしてツーブロックが駄目なのか、携帯の持込みも良いじゃないかと言う話をされたのですが、長商の前田校長が明確に、ここは進学校ではないんです。大学に進学するのも就職するのも推薦でいきます。そうした時にそこで何が必要でどういったことが大切かということ学ぶ3年間なのでツーブロックは駄目なんです。携帯も持込みは駄目です。ということ明確に仰っていて、同じことを大村工業高校もしていました。こういった考え方もひとつあるのかなと。ただ一方で先日も話題になっていましたが、私の次男が通っている学校は進学校ですが、ツーブロックもオッケー、携帯の持込みもオッケー、自分で考えろ、

学校が言うことではない、親が家庭で指導することだと明確に言い放たれていました。これもまたひとつの考え方です。靴下でいろいろなことにも及ぶようなテーマなのかなと思っていますので、ぜひご検討いただいて、ツーブロック、ポニーテール議論と同じような考え方かと思います。

教育政策監 西村 一孔

校則についても、市内の中学校の生活指導の主事を迎えて検討を進めているところです。その中で生徒指導提要在久しぶりに改訂されまして、その中で校則については、全てオープンにしないと、ホームページなどに掲載したりオープンにしないと、そして校則を決める際には子どもたちの意見をしっかり聞きなさいということが書かれていました。今は生徒指導の先生だけで検討していると思いますので、今後は生徒会とか、そういったところに声を向けて、子どもたちの意見を聞くということで、その中で靴下は黒や紺色が良いのではないかなとか、そういった意見が出てくるのではないかなと思います。先生たち、保護者、生徒で協議をしてもらって、じゃあこうしましょうと。ただ市内でバラツキがあるといろいろな事が出てきますので、そこはある程度そろえていく作業をしていかないといけないのかなと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。いろいろな考え方があると思いますね。長男の大村工業高校は、厳しいけれど靴下は自由でした。次男の今通っているところは、ツーブロックも良いし携帯持込みも可能ですけれども靴下は白ですね。なんでかな、いろいろとあると思います。他に皆さんからご意見等ないでしょうか。

教育委員 前田 愛

今、指定の鞆と靴があるのですが、そこは変わらないということによろしいのでしょうか。

大村市長 園田 裕史

靴と鞆ですよ。

教育政策監 西村 一孔

今、靴はほとんどが白い靴、運動靴みたいなものですよね。それが今度の新しい制服とマッチするのかを考えないといけない。そんなことで靴も変えようかという話になる可能性はあると思います。指定靴については、西大村中が指定靴ですね。あとは桜中も指定靴ですね。あと大中や玖島中は指定靴はなくてリュックみたいなもので通っているので、いずれにしても市内でどうするかについては先生方や校長の中でも協議してもらわなければならないと思います。

大村市長 園田 裕史

そうですね。今いろいろと出ましたけれども、制服が変わるということだけではなくて、制服が変わるということのひとつのきっかけにして、校則であったり、それにまつわる靴であったり鞆であったり、どういったものが良いのか、あと1年間はあるので、その中でもんでいければ良いと思うし、この総合教育会議でも私自身も話題にしたいと思いますし、教育委員会の中でもご議論いただければと思います。他に皆さんからありませんか。三つの方針を示されていますが、中嶋委員どうぞ。

教育委員 中嶋 剛

この学校規模の適正化についてですが、教育委員会が考えている方向性は、私は良いなと思っています。これで進めていただきたいのですが、ここに適正化の方向性ということで、安易な統廃合は行わずと書いてあります。ここに新設ということは書いていません。前回も私は市長さんに確認したと思うのですが、新設はとにかくしないということで良いんですね。

大村市長 園田裕史

はい、今のところ新たにというところは考えておりません。ただひとつ先程の中でもありましたが、萱瀬エリアの中で地域の皆さんのご意見を聞いている萱瀬小・中、黒木小、ここの学校の小中のあり方が新しい形になるのであれば、新しい格好にはなりますけれども、プラスということでは

ないので、新設ということはないです。

教育委員 中嶋 剛

分かりました。結局、2番目の大規模校は通学区の見直しを行い適正規模に近づけるといいます。これはやはり一番難しいところでしょう。それぞれに地域の懇談会に行かれて説明をされた時に時間がなかったせいか、あまり意見は出ていないということを知りましたけれども、やはり昔からの校区というのが市長さんも先程仰ったけれども、本当に変えるのは難しいなという面もあります。ただ私が西小にいた時に、西小の隣の川を隔てて古町住宅があります。西小のすぐ目の前ですけれども中央小に行きます。大村中学校も私が勤務した学校ですが、新城辺りの子どもは本当に遠いんです。大村中学校まで通うのは。むしろ西中、あるいは桜中の方が近いんです。そこを考えた時にやはりこの部分は変えた方が良いなと思うところもあります。そこも検討をしっかりとやらなければならないと思います。それから当然これには、保護者の意見、町内会の意見等、ずっと入ってくると思うのですが、その点の説得等も入ってきますね。非常に難しい問題だと思いますが、遠藤教育長さんであれば必ずやられるだろうと思います。

制服の見直しの件についてですが、今までいた在校生の方はどうなるのか。入ってくる生徒たちは新しい制服に全部なりますが、現3年生の子どもたちの希望者はそういうふうにするのか、あるいは従来通り3年間卒業するまでは、今までのものを着るのか、そういう点もしっかりしとかなないといけないだろうと思いますね。それから制服が決まると当然、校則の見直しというのが起こってきます。その中で朝長先生が仰った靴下など全部をひっくるめて見直しを行う。この時に保護者、あるいは子どもたちの意見を十分に取り入れて、よりよいものを作り上げていくことが重要になると思いますね。

大村市長 園田裕史

ありがとうございます。いずれにしてもしっかりと三つの柱を進めてきていただいて、進捗も図られていますから最終ゴールに向けて、今あつたご指摘も踏まえて、また皆さんに意見を出し合っただけで進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

時間もだいぶ過ぎておりますが、ここでひとつ議題であがってはいないのですが、皆さんにお配りしております最新号の「広報おおむら3月号」に「制服事情の今」と題して遠藤教育長と大村高校の原校長に対談いただきまして、特集記事として掲載されています。私は非常にこの対談良いなと思ひまして、繰り返しですが、このタイミングに歴史ある大村高校の制服が変わるということで、私のところに去年だけで鉛筆で書いた女の子からの葉書が2通届きました。大村高校の制服は変わらないのですかと、市長変えてください。変わったなら大村高校に行きたいんだと。私も遠藤教育長も変える権限はないので、副市長が同窓会の副会長なので副市長に伝えておきますと、ちょうど去年の今頃言っていたのです。そして話を聞いてみたら変わるということだったので、私もびっくりして、またお手紙を書いて、変わるみたいですよと、ぜひあなたが行きたいと思っている大村高校に行ってくださいと書いていたら、先日また返事がきて、勉強を頑張って大村高校に行けるように今頑張っています、ありがとうございました。と返信がきました。鉛筆で書いてあつたのですが、そのくらい中学生からも非常に関心が高い大村高校の制服の変化なんだろうなと思ひています。ここで教育長に感想を含めて、今後の取組み等のお話をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

教育長 遠藤雅己

皆さんにいつも話しておりますので控えておりますけれども、この大村高校の制服改定が市内で最後の取組になるのではないかと、かなり大きな影響を与えると思ひています。これを一年でやっ

てしまうのはたいしたものだと思います。多分、保護者、生徒、同窓会、こういうところをまとめていかないといけないので、大変だったのではないかなと思ひます。そういう中で一番下の市内4高校の制服事情ということで掲載されていますが、詰襟とブレザーから選ぶことができます。詰襟型かブレザー型かは、本人の希望次第ということで女子生徒も着れる訳です。そういうことで、内側にいろいろなものが着れる状況にして、やはり個々人の経済状態も考えているということでございますので、そういう意味では、これはいろいろな意味での大きな改革になってくるのではないかなと思ひています。大村高校の改革をまずは制服から入って、「行ける高校」から「行きたい高校」に変える、必ず大村高校は新生大高ということで変わってくれるんじゃないかと非常に楽しみにしております。

参考までに平成6年に文科省の制服の研究発表を行ったことがあります。当時から文科省が中心となり、学生服からブレザー主体の制服への改革が始まって30年余り経過しました。

赴任先の学校が変わると必ず制服も変わってきたので、波佐見高校では第一にズボン型の制服に変わったのが県内で初めてでありました。波佐見高校の女子生徒はズボンとブレザーで自転車に快適に乗っています。今回は、そういう経験をもとに靴下の色とかいろいろとあると思うのですが、普段はあまり内側には指定をしないで自由に着せていいんじゃないかなと思ひております。今まで三校の制服を変えて、気持ちはそういうことでございますので、大いに皆さんの意見を取り入れて現場の皆さん方、保護者、生徒の意見を聞きながら、本当に活気あるまちづくりに制服が踊っているなというふうになっていけたらと考えています。以上です。

大村市長：園田 裕史

ありがとうございます。遠藤教育長は波佐見高校の校長だった時に県内で初めてスラックス型の

女子制服を波佐見高校で導入され、その後大村工業高校の校長先生になられた時にまた制服を変えられて、女子の制服がキュロットなんですね。一見スカートに見えるんですが、あのような制服になって制服を変えてこられたこともあって、今回の中学校の制服もスムーズにいつているのかなと思います。この大村高校の制服もそうですが、やはり学校の特色、これまでのなす紺だったり大村湾というイメージもちりばめられているのかなと思ったりもしますし、大村市の新しい制服でも学校ごと一緒だったら特色がなくなるじゃないかと地区別ミーティングの中でもあったのですが、そこはネクタイやスカート、校章で特徴を出すという方針を示されていますし、十分に今後大村市内の中学校の制服導入に向けても、先行して大村高校が始まるので非常に良いかなと思います。市議会の中でも直接的に大村市に係わることではないのですが、大村高校の定員割れのこととか大村高校のさらなる活性化とか、よく議題にあがってきていました。4月から制服が変わる、文理探究科が始まるということで、いろいろなことが相まってなのか前期入学願書の提出状況でいうと、長崎西高の次に高くジャンプアップして2番でしたね。5倍だったということを新聞で見ました。前期・後期という長崎独自の受験制度で変化が起きているという見方もされる方もいますが、とはいえ去年も同じ状況で変わらなかったもので、十分にいろいろな形で関心が高まってきていると思います。

女子生徒の制服が変わることは、大きなひとつの視点でもあるのですが、佐古委員、何か思われることとか感じられることとかございませんか。

教育委員 佐古 順子

ひとつの制服に決まったということで、まだ発表ではありませんので、どこまでお話いただけるか分かりませんが、この導入形態について「ミライへON!NO.6」に書いてありますように、「左前、右前が自由に変えられる上着」を読みますと、男

女兼用なんだとか「体型の違いに合わせた、又は逆に違いが出にくいデザインのスラックス」これは女子生徒と男子生徒が同じようなものはどうかと、母親としては気になるころですね。そう感じました。やはり男子生徒は肩で着るタイプと女子生徒のサイズの測り方は違うと思いますので、ここに書いてありますが「生徒の誰もが安心・安全な学校生活を送ることができる大村市内統一型の制服」ということで、子どもたちが安心して着られるような制服、サイズに関しましてもお願いしたいと思っています。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。シルエットが大事だということですよ。男性、女性ではシルエットが変わってくるということがあるかなと思います

教育政策監 西村 一孔

ありがとうございます。制服の四大メーカーにデザインを出してもらって、4つに絞ったのですが、1社からだいたい2種類ずつデザインを示してもらいました。その中でもやはり、同じスラックスでも男子と女子では違うということで、そういったところに配慮しているという説明も受けております。男性のスラックス、女性のスラックスとしてそれぞれに準備できるのではないかと思います。

大村市長 園田裕史

ありがとうございます。前田委員、母親の視点から何かございませんか。

教育委員 前田 愛

もしカッターシャツで可能であれば、高校もそうなのですが、アイロンをかけるのが結構な手間になっているので、ノンアイロンのものが良いなと思ってはいました。

教育政策監 西村 一孔

今、前田委員からありましたものについては、制定委員会でもそういう話が出ました。女性の委員さんがたくさんいらっしゃいますので、やはり子どもを育てる中でアイロンかけ、プリーツスカ

ートなどもアイロンかけするのがとても面倒だとか形状キープのシャツとかあるのだからという話もありました。それで選択肢も増えました。

教育委員 前田 愛

あとは値段ですね。

大村市長 園田 裕史

価格というのは最初に統一型に取り組むということのひとつの背景の中にあつた大きな課題のひとつですから、そこも当然改善される形で最終的に決まれば良いと思います。ワイシャツ等については、特に大村工業高校で教育長が変えられた時に内側にチェック柄を入れているんですね。あえて黄ばみとか汚れを目立たないようにということで、裏地にあえて色を入れているということです。すごく良いなと息子が行っていた時に思っていたのですが、去年ちょうど城南高校が、そういうことで目立つということで、生徒会に女性の生徒会長がいるのですが、彼女たちが生徒会で立ち上げて制服を自分たちで新しいポロシャツを作るんだということで新聞にも載っていましたが、城南高校もポロシャツの夏制服を作って、生徒会でデザインをして、内側に柄を入れて、そういうふうに黄ばみや汚れが目立たないように自由に着れるようにということで長崎新聞に載っていましたが、そういう取組をしていました。良いところはしっかりと取り入れてやっていければ非常に夏服についても良いのができるのではないかなと、またいろいろとご意見をいただければと思います。

教育委員 船橋 修一

制服が変わるのは楽しみですね。私どもの会社の制服をジェンダーレスにしようということで、SDGs 委員会でもやっていますので非常にツールとして良いと思います。学校の校内の校則の問題がありますよね。恐らく下着の問題とかあるかと思いますが、よく思うのがドレスコードという考え方が盛り込めないのかというのがあります。Tシャツでも何でも良いじゃないかということもあ

りますよね。実際に我々が社会人になれば、今は以前よりもネクタイを付けなくて良いという風潮になっているのですが、ドレスコードが非常に厳しくなっています。どういうことかと言うと、例えば我々のようなホテルのスタッフは下着は白です。ボトムはそうではなくても、白のカッターシャツに白のシャツということで社内のドレスコードが決まっているんです。やはり赤いシャツを着たりとか黒いシャツを着ると、お客様から目立ちますよね。世の中にはドレスコードがあつて、例えばパーティーでも今日のドレスコードはスーツ着用、ネクタイ着用ということであれば、我々も迎える側として、そのドレスコードに合わせる。今回は内部のパーティーだから自由でTシャツでもオッケーというような、TPO で変えるというのが、今後非常に求められると思います。昨今、東京辺りにいくと、ドレスコードの指定があつたりするんですね。それを知らなかったら大恥をかいってしまう社会になりますし、この前社員がアメリカに出張した時にレストランでドレスコードがあつて、ネクタイを忘れて部屋まで取りに帰りました。追いかえされるんですね。そういう世の中のドレスコードという仕組みがあるということを前提で下着を白だとか、白かどうかは分かりませんが、学校の中でもこういうドレスコードなんだということを言われると赤でもいいじゃないかというようなことにはならないんじゃないかと思えますね。ソックスの色もそうだと思いますし、そういうご配慮があつたら社会人として出ても苦労しなくてすむのかなと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。本当に靴下の話や髪型の話なども含めてそうですね、その理由付けや背景で何を示すかということだと思います。制服を統一して変わりますと言った時に一番関心も上がると思いますので、そこを幅広く今のご意見を含めて、これがどっちになるとか何でそうなのか、そこは固めていきたいなと思っていますの

で、よろしくお願ひいたします。

協議に挙げた事項は以上になりますので、協議事項を終了しまして、一点ほど報告事項がありますので、一旦事務局に戻したいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

企画政策部長 渡邊 真一郎

それでは、次第「4. その他」に移ります。本年4月に設置を予定している「大村市幼児教育・保育支援センター」について、こども政策課から説明いたします。

こども政策課長 内野 一嗣

次の資料「大村市幼児教育・保育支援センター」について説明いたします。まず、昨年11月の教育委員会で3つの幼稚園を閉園する条例議案を決定いただきましたが、その後、同条例につきまして12月議会で議決をいただきました。来月3月16日に3園で時間をずらして卒園式および閉園式を行う予定としております。

それでは幼稚園の閉園にあわせて、令和5年4月に放虎原こども園内に開設いたします「大村市幼児教育・保育支援センター」について、簡単にご説明いたします。

本センターは令和2年度から6年度までを計画期間とする第2期大村こども・子育て支援プランにおける市立園の役割として、教育研究機能、および特別支援機能を強化する方針に基づき開設するものです。お手元の資料をご覧ください。真ん中少し上の黒字の部分ですが、本センターは教育・保育施設の支援とありまして、子どもや保護者への直接の支援ではなく、教育・保育施設への支援を行い市内全体の教育保育の質の向上と充実を図り、将来を担う子どもの豊かな心の育成を目指します。市職員である保育士や幼稚園教諭を幼児教育保育アドバイザーとして配置し、4つの事業を主体的に取り組めます。1つ目が園訪問です。子どもの人権に配慮した保育のあり方や、特別な配慮が必要な子どもへの係わり方、保護者対応等、保育者の困りごとについて助言などを行い

ます。2つ目が研究・研修です。園訪問によって捉えた現場の課題やニーズに応じた研修を企画し開催します。また、今まで公立幼稚園で実践していた幼児教育の研究を引き続き引き継ぎ、将来的には私立園との共同研究を目指します。3つ目は情報発信です。研究成果や保育士の負担軽減に資する取組等を積極的に発信していきます。最後が連携・協働です。障がい児支援や幼保小連携等、市内各施設、各関係機関との円滑な連携強化を図ります。幼稚園は閉園になりますが、これらの事業を本センターにおいて総合的に実施し、市内の幼児教育のさらなる充実に向けて取組んで参りますので引き続きご助言、ご協力をよろしくお願ひいたします。報告は以上です。

企画政策部長 渡邊 真一郎

ただいまの説明でご質問等はありませんでしょうか。中嶋委員どうぞ。

教育委員 中嶋 剛

業務内容は分かりました。この支援センターの構成人員ですが、職員等はどうなっていますか。

こども政策課長 内野 一嗣

今、人事課と調整中ではっきりとした確定ではないのですが、こちらの希望としては正規職員3名程度を配置いただきたいと思います。それと非常勤で事務員を若干名配置したいと考えております。

企画政策部長 渡邊 真一郎

他に質問等ありませんでしょうか。教育長お願ひします。

教育長 遠藤 雅己

先日、こどもセンターにお邪魔して、幼稚園教諭と保育士さんたちにお会いしてきてのですが、私が感じたことは、今、幼保小連携・中高連携ということで、大村市では上手く連携が取れている訳ですね。現在、小学校の教職員が足りないんですよ。現状として病気や出産等で先生方が休んだらあとは代わりがないんですね。それで幼稚園の先生方の姿勢を見ていたら、ぜひ幼稚園免許で

も小学校に来ていただいて、校種間交流という制度はあるんです。特別支援学校と小中学校、高校と特別支援学校など、できれば幼稚園教諭の方も小学校の方にお預けいただいて、良い研修をしていただき、数年後に戻って幼児教育にあたってもらう。小学校の出口の経験をしていただくということで、見識を広くして頂きたいものです。幼稚園教諭の方にも、申請があればすぐに臨時免許は出ますので、小学校に行って教えたいなという方がおられたら、ぜひこちらの方にも志望されて、指導をおこなうことで子どもたちも喜ぶと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

大村市長 園田 裕史

良いんじゃないですか。良いですね。

こども未来部長 山中 さと子

貴重なご提案をありがとうございます。ぜひ職員のスキルアップのためにも、そういった交流等をさせていただければありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

大村市長 園田 裕史

それは授業ができるということですか。

教育長 遠藤 雅己

できます。堺課長説明をお願いします。

学校教育課長 堺 邦寿

幼稚園教諭の免許状をお持ちの先生には、特別免許状というのが発行されますので授業を行うことも可能です。

大村市長 園田 裕史

良いですね。

教育長 遠藤 雅己

ただ、この交流ですが、こちらからおあげする人員の方はいないので、一方的にならないように交流しなければなりません。

大村市長 園田 裕史

一点良いですか。ちょうどこの一年もそうですけども、保育士さんの現場が非常に疲弊をしていて、我々も待機児童解消を主たる目的として、保育士のさらなる確保をしています。もう一つ

は余裕がある、少なくとも今の大変な状況を少しでも緩和できるように保育士さんを保育園に入れば一番良いのですが、そのためにも保育士さんを確保しています。要はどういう問題が起きてくるかという、大変な保育園の現場の中で、例えば特別に支援を要するお子様、発達障がいの傾向にあるお子様、やはり保育所でお育ちになるということは大事なことです。一方でそこに保育士の時間も当然割かれるところもあって、より手厚くフォローをすることが必要だと思っています。そのために保育所をさらに確保していく、待機児童を解消していくということで進めていくのですが、これはこれでやっています。ただもう一つは、未就学児の時点で特別に支援を要するお子様のフォローを充実させることができれば、子どもたちが小学校にあがった時に、やはり入学式で心配だな、1年生になった時に心配だなと思った時に、今、教育委員会の方で補助員を充てさせていただいていますので、これもまた新年度には補助員を増員した形で体制を強化しますが、その手前の段階で幼児・保育教育というところで、その部分をフォローして行って、特別に支援を要するお子様たちが少しでも小学校に入る前に改善できたり、保護者さんのお困りごとが解消できたりということ、ぜひ進めていきたいと思っておりますので、そういった部分も新たな機関で相談・支援体制を強化して行って、小学校に入る前に少しでも困り感のあるお子様に対して、フォローアップできるように、改善に向かうように努めていきたいなと思っています。やはり早期発見、早期治療で早めにフォローができれば、その後の状況というのは変わってくると思いますし、私も子どもたちが小学校に通う中で1年生、2年生でちょっと心配だなといったお子様も3年、4年、5年になってくるとだんだんと変わってきて、今ではびっくりするくらい落ち着いてきている子たちもたくさんいますし、周りの環境で変わっていく、早めにフォローをしていけば変わっていくということ

があるので、未就学児の時点で外でのフォローの強化をするという役割を担っていきたいと思っていますので、これは幼稚園、保育園の未就学児というところのセンターですが、そこは小学校にも十分繋がっていくことに教育委員会の皆さんにも関心を持っていただければということでもよろしくお願いたします。

教育委員 中嶋 剛

先程、何名で構成するかということを行いましたけれども、今、小学校の現場も非常にいろいろな子どもたちが多いですね。早期と仰ったけれども、早期発見という点では、幼児期にそれが分かれば非常に良い訳ですよ。その時に3名の体制で本当に良いかなと思って、これは精査する必要がありますかと思う。本当にこのセンターが機能するかどうか、名前だけになってしまったら困りますので、その点を部長さん始め十分に精査をしてみてください。そして、やはり3名では足りないという時は、呼んでくださいと仰れば良いわけです。その点、私は非常に幼児期の教育は大事だと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。

こども未来部長 山中 さと子

ありがとうございます。今、早期支援のために、今現在は母子保健事業として切れ目のない支援の中で早めに見つけて支援に繋げていくという事業をしていまして、ここに記載している内容を今は保健師がやっている事業になります。これをさらにパワーアップさせる形でこちらに持ってきておりました、この巡回相談は新しく職員を3名配置すると申し上げましたが、その職員と母子保健師と、市民相談のスタッフとともに回っていくという予定にしております。そうは申しましても今、56園市内にございますので、状況を見ながら必要に応じて人員を配置できたらと思っております。ありがとうございます。

企画政策部長 渡邊 真一郎

その他、皆様からごさいませんでしょうか。次回の総合教育会議の日程でございますが、後日、改めてご連絡さしあげたいと思います。

これをもちまして令和4年度第3回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございます。